

令和7年度 入賞作品集

「わたしのふるさと」作文・絵画
中学生広場「私の思い2025」作文
「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」
(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター



彦根市青少年育成市民会議
彦 根 市
彦根市教育委員会

はじめに

彦根市長 田島 一成

この度、入賞された皆様に心よりお祝い申し上げます。また、作品にご参加いただいたすべての皆様にも、心から感謝の気持ちをお伝えいたします。

2025年秋、滋賀県で開催された「わたSHIGA輝く 国スポ・障スポ」。私たちの市も、国スポ5競技、障スポ2競技の開催地となり、選手をはじめ、大会に関わるすべての人々が共に輝き、夢や感動を分かち合いました。この大会を通じて、地域の絆や協力の大切さを再確認し、明日への希望がこの地にしっかりと引き継がれました。

地域全体で協力し合う姿勢が見られる一方で、私たちの社会にはまだ解決すべき課題が残っています。少子化や社会構造の変化により、子どもたちを取り巻く環境は日々変わり続けています。こうした状況に対応し、より良い未来を築くためには、私たち全員が力を合わせ、家庭、学校、地域、市民が一体となって次世代を育てていくことが大切だと感じています。共に支え合い、明るい未来を作り上げていけると信じています。

本市では、青少年健全育成の一環として、これまで作文や絵画を通じて、若い世代が地域や家族の大切さを表現する機会を提供してきました。今年も多く素晴らしい作品が集まり、それぞれに子どもたちの思いや夢が込められていました。こうした作品に触れることで、私たち大人もその熱い気持ちに励まされ、改めて力をもらっています。この活動を通じて、地域全体で若い世代の成長を支え、共に未来へ向かって歩んでいけることを嬉しく思います。

さらに、今年には戦後80年という節目を迎えました。過去の教訓を振り返り、平和の大切さを改めて胸に刻みながら、次の世代にその尊さを伝えていく責任を深く感じています。平和を守るための努力が、私たちの未来をより良いものにしていくと確信しています。

最後に、作品にご参加いただいた皆様、指導・審査にご協力いただいた先生方、そして温かく見守り、支えてくださった保護者や地域の皆様に、心より感謝申し上げます。今後も、子どもたちが明るく心豊かに成長できるよう、皆様と共に力を合わせていきたいと考えています。



ごあいさつ

彦根市青少年育成市民会議会長
門野 明

平素より青少年の健全育成にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

2025年秋、私たちの地域では「わた SHIGA 輝く 国スポ・障スポ」が盛大に開催され、すべてのアスリートが自らの力を存分に発揮し、素晴らしい成果を上げました。障害の有無にかかわらず、努力と情熱でトップアスリートになれることを改めて実感し、特に小学生たちの応援が印象的でした。地域全体が一丸となって大会を盛り上げ、その力強い姿勢に私たちは深く感動しました。

今年度の入賞作品集には、彦根市内の小学生・中学生から多くの素晴らしい作品が集まりました。作文や絵画、ポスターを通じて、ふるさとへの思いや自分の考えを表現する姿に大きな感動を覚え、家庭や地域、学校での体験が成長にとって重要であることを改めて実感しました。ふるさとの自然や地域の人々との交流が、子どもの成長を支える大切な力であり、その思いが込められた作品を今後も大切にしていきたいと強く感じています。

さらに、今年の「青少年健全育成フォーラム」では、作文・絵画・ポスターの表彰や発表、作品展示を通じて、参加者の思いを多くの方々に伝えることができました。この活動を通じて、安心して自分の考えを表現できる環境の重要性を再認識し、地域全体でその成長を支える役割の大切さを改めて感じています。

また、彦根市青少年育成市民会議は、「地域の子どもは、地域で守り、育てましょう」のローガンのもと、関係機関・団体と連携し、青少年の健全育成に向けた効果的な取り組みを進めています。今後とも、市民の皆様には引き続きご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、多くの方々にこの作品集をご覧いただき、子どもたちの思いやメッセージが広まり、感動や新たな気づきを感じてもらえることを願っています。

入賞者の皆様、そしてご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



も く じ



「わたしのふるさと」作文

特 選

					頁
わたしの大切な思い出の場所	城西小学校	3年	國領 結菜		1
八重ざくらとすごすきせつ	平田小学校	3年	北川 志帆		2
私の町の地藏盆	旭森小学校	5年	中山 百花		3

入 選

ぼくの住んでいる町	稲枝西小学校	3年	本庄 和結		4
魚のゆりかご	稲枝西小学校	4年	柴田 にこ		5
ぼくの大すきな本じょう町	稲枝西小学校	4年	山本 悠嵐		6
ぼくの町のじぞうぼん	鳥居本小学校	5年	後藤 寛太		7
自慢のふるさと	城東小学校	6年	白居 陽莉		8
百五十三年続く私の小学校	旭森小学校	6年	端名 星七		9

中学生広場「私の思い2025」作文

特 選

					頁
家族の心をつなぐもの	南中学校	1年	福原 知紗		10

入 選

私の思い	西中学校	2年	森 みのり		12
「私」の音楽	東中学校	3年	墨 柚希		13
今も続く広島戦争	西中学校	3年	間宮 和香		14
「お米の今」	稲枝中学校	3年	小林 美月		15

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」絵画・ポスター

特 選

					頁
きれいなさくら	城西小学校	3年	菊本 遥日		16
家族のMemories	西中学校	2年	古澤 舜椰		16
家族といたい。	西中学校	3年	清水 優花		16

入 選

たのしいプール	城東小学校	1年	御厨 紬		17
大すきな弟とわたし	若葉小学校	2年	山崎 滯		17
家族の思い出は宝物	城南小学校	4年	浅賀 萌生		17
家族みんなと夏の思い出	金城小学校	4年	北村紗菜実		17
家族の絆	彦根中学校	1年	末石 栞奈		18
地域のつながりを大切に	西中学校	2年	細谷 寧々		18

「わたしのふるさと」絵画

特 選

					頁
もうすぐ鳥人間コンテスト！	城西小学校	6年	毛利 優太		19
旧鳥から見た赤玉	鳥居本小学校	6年	小嶋 寧々		19
公園からの芹川のむこうがわ	東中学校	1年	大西 美穂		19
私の帰り道	西中学校	3年	毛利 莉琥		19

入 選

いえのすいかですいかわり	平田小学校	2年	平石 愛果		20
夜の彦根城と花火	佐和山小学校	3年	寺村 拓海		20
花しょうぶ通りの月	城東小学校	5年	國枝奈乃葉		20
おじいちゃんと田植え	佐和山小学校	5年	佐藤ななみ		20
いつもの風景	佐和山小学校	6年	小川 千咲		21
夏休みの流しそうめん	鳥居本小学校	1年	矢田 皓雅		21
あのベンチ	稲枝中学校	1年	上林 眞彩		21
見慣れた街並み	西中学校	3年	速水 咲那		21

佳作入賞者一覧 22

審査員紹介 23

< 作品応募状況 >

	参加小学校	参加中学校	応募数
「わたしのふるさと」作文（小学校）	10校		37編
中学生広場 「私の思い2025」作文		7校	32編
「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」 絵画・ポスター	12校	3校	小学校 50点 中学校 14点 計 64点
「わたしのふるさと」絵画	13校	3校	小学校 62点 中学校 8点 計 70点



「わたしのふるさと」作文

特選 こくりょう 國領 結菜「わたしの大切な思い出の場所」彦根市立城西小学校 3年

わたしには毎年十二月の初めに、かならず家ぞくで行く場所があります。それはこうじん山の近くにある、そねぬま公園です。

そねぬま公園には木がたくさんあって、その木の落ち葉がじゅうたんのようになふわふわで、赤色やだいたい色、緑色や黄色など、いろいろな色がまざっていて、とてもきれいです。その木はお母さんがメタセコイアの木だと思っていたら、ラクウショウの木だったそうです。調べてみると、ラクウショウは、ぬま地に多いスギなので、ヌマスギともよばれるようです。弟といっしょにそのラクウショウの落ち葉や木のえだで、ひみつきちを作ったり、どんぐりやまつぼっくり、もみじの葉をひろったりしました。落ち葉シャワーもしました。

ぬまもあるので、朝や夕方、け色も空がぬまにうつってとてもきれいです。

そこには、さん歩をしている人がたくさんいます。去年の十二月に行った時、さんぽをしていたおじいさんが、一年前のもみじのしゃしんを見せてくれて、

「このもみじは毎年きれいなもみじやで」と教えてくれました。そのおじいさんも毎年もみじを見に来ているんだなと思いました。

わたしの家ぞくが毎年そねぬま公園へ行く一番の目ときは、家ぞくしゃしんをとることです。わたしのお母さんが一まいのしゃしんを見せてくれました。わたしがお母さんのおなかの中にいるときに、お父さんと、お母さんが、このそねぬま公園でとったしゃしんです。

わたしはそのしゃしんを見て、わたしが生まれる前から行っていたと、知ってびっくりしました。そのころから毎年そねぬま公園へしゃしんをとりに行くのを、こうれいイベントにしたそうです。

そねぬま公園で、今までとったしゃしんを見ていると、毎年大体同じけ色なのに、わたしは大きくなり、弟が生まれて、家ぞくがふえたり、せい長したりと、まるで家ぞくのれきしを見ているようです。

今年もまた十二月の初めに、家ぞくでそねぬま公園へ行って、しゃしんをとったり、あそんだりしたいです。わたしはこれから、大きくなっても、家ぞくみんなとそねぬま公園でしゃしんをとりつづけたいです。



特選 北川 志帆「八重ざくらとすごすきせつ」彦根市立平田小学校 3年

わたしのふるさととは、滋賀県彦根市です。わたしは平田川ぞいに住んでいます。平田町にはきれいなけしきがたくさんありますが、その中でも、わたしが一番すきなのは、平田川の八重ざくらの通りぬけです。

八重ざくらは、花びらがたくさんあるさくらです。平田川の両岸に植えてあって、こいピンクやうすいピンクの花がさきます。

平田川の八重ざくらの木は、二十しゅるい以上あるそうです。わたしの家の前には、一葉という品種の木が植えてあります。一葉の花は、丸くてふわふわしていて、とてもかわいいです。

八重ざくらはソメイヨシノよりもおそくさきます。だから春を長く楽しめます。ソメイヨシノがちってしまってから、平田川ぞいをすてきに明るくしてくれます。

わたしは毎年、さくらの前でしゃしんをとっています。一番さいしょは、お母さんのおなかの中にいるときです。0才、一才、二才・・・とわたしの成長とともに八重ざくらも少しずつへんかしているのがわかります。

平田川の八重ざくらの木は、今から二十年以上も前にこの町の人たちが、「平田川ぞいに、さくらの通りぬけをつくる会」という会を作って植えたそうです。

昔は草が生え、ゴミもおちていたそうですが、今では春になるとたくさんの人たちがこの道をさんぽします。わたしはひこにゃんにも春のさんぽに来てほしいと思います。

八重ざくらは四季を通してずっときれいです。春はまんかいの花がさいて、まるでピンクのふわふわわたあめがたくさんついているようです。花びらがちって地面に落ちるとピンクのカーペットになります。

夏は緑の葉っぱがたくさんつきます。葉っぱのすき間から見る夏の青空はとてもさわやかです。

秋は葉っぱが黄色やオレンジ色になってちります。ちった葉っぱをふむとパリパリ音がなっていて、とても楽しいです。

冬は葉っぱが全て、ちってえだだけになります。そこに雪がつもると、まるで絵のようきれいです。わたしのお母さんはそのけしきが一番すきだそうです。

わたしには毎日八重ざくらを見えています。きっと八重ざくらも、わたしを見まもってくれています。これからもこのふうけいを大切にしていきたいです。



特選 中山 百花「私の町の地蔵盆」彦根市立旭森小学校 5年

今年になってお母さんが地蔵町の子ども会会長を引き受けることになり、私自身も、地蔵町のことを詳しく知るようになりました。

まず、地蔵町には自治会があり、自治会の役員の方たちは、町内のみんながくらしやすいように、活動してくれていることを初めて知りました。清そう作業や運動会など当たり前だと思っていた地いきの行事が、自治会の人たちが、うらで支えているおかげだと知り、おどろきと感謝の気持ちがわいています。少し前に、お父さんがやっていた宮世話さんは、春日神社を守る係ということもわかりました。そして私が毎年楽しみにしている地蔵盆や、夏祭りも、自治会や子ども会がやってくれていることを、お母さんが教えてくれました。

私は、お母さんが子ども会の会長になって少し忙しそうにしていたので、なんて大変なことなのに、子ども会も地蔵盆も毎年続けているのだらうと、不思議に感じて、お母さんに聞いてみました。

「今は時代が変化して地蔵町の子ども会ではほとんどの行事がなくなっているから、役員としてはありがたいよ。でも『地蔵盆だけは、子ども会で続けていって欲しい』と自治会長さんから言われているんだよ。」

「どうして？」

「地蔵町にあるお地蔵さんは子どもたちの守り神だから、地蔵盆は子どもたちからお地蔵さんに感謝を伝える日としてこれからも大切にしないとイケないって自治会長さんから教えてもらったよ。」

お母さんからそう聞いて私はもっと、地蔵盆について知りたいと思いインターネットで調べてみました。地蔵盆は主に近畿地方で行われているお地蔵さんを清める風習だそうです。盆踊りや屋台を楽しむようなただのお祭りではなく、お地蔵さんに感謝して大切にするためのものと、わかりました。

地蔵町では地蔵盆と夏祭りが同じ日に行われます。地蔵盆は子ども会が子どもたちを集めて、住職にお経をあげてもらって、ゲームをします。そのあとの夏祭りは、自治会や、宮世話さんなど町内のたくさんの人たちが、協力して、屋台やステージの準備をしてくれているそうです。

お母さんは地蔵盆の準備に忙しそうだったので、私もお手伝いをしました。

地蔵盆の当日も、子どもスタッフとしてゲームの手伝いをして、やりがいを感じました。私も地蔵町の伝統を、引き継いでいる気持ちになり、とてもうれしくなりました。

地蔵盆や夏祭りで、大人も子どももすごく楽しそうにしているのを見て、私は地蔵町のことがもっと大好きになりました。これから子どもたちも大人と一緒にみんなで地蔵町の伝統を引き継いでいきたいなと思いました。



ぼくの家の周りでは、いのししやたぬきが出ます。野生動物は、人の生活をじゃますることがあります。林からガサガサと音がすると「何か出て来るかも」とドキドキします。さいきんニュースでは、「くまが人をおそった」とか、「畑の作物を食べてしまった」という話をよく聞きます。ぼくの町ではくまは出たことはありませんが、たぬきやいのししのような野生の動物が人のすぐ近くに出てくることがあります。

どうして野生の動物たちが、人のすむ町に出てくるのか気になったので、図書館で本を読んできました。そこには、「山の中にえさがないとき、動物たちはおなかをすかせて町まで食べ物をさがしに来ることがある」と書いてありました。おじいちゃんに聞いてみると、「むかしは山と町のあいだに畑や田んぼがたくさんあって、人がくらしていたから、動物も人をこわがってなかなか出てこなかったよ」と教えてくれました。でも今は山に入る人が少なくなって、動物が町の近くまで出てきてしまうことがあるそうです。お父さんは「野生の動物が人の生活に近づかないようにするには、電気さくをつけたり、カメラやブザーなどの見はりのしくみを作るのが大切だよ」と話してくれました。動物たちをむやみにこわがるのではなく、できるだけ、出会わないようにすることが大事なのだと思います。

ぼくの住んでいる町は、林や田んぼがあって、春には、ウグイスが鳴き、夏はせみの声がにぎやかです。秋は赤とんぼがとび、冬はきれいな朝日が見えます。毎日あいさつをしてくれるおじいちゃんやおばあちゃんがいて、町の人たちはとてもやさしいです。登下校のとちゅうに、「おはよう。」「気をつけてね。」と声をかけてくれると、なんだかほっとします。

ぼくはこの自然がいっぱいで、あたたかい人たちがすんでいる町が大すきです。だからこの町に野生の動物が出てきて、動物も人もこわい思いをしないようにするにはどうしたらいいか、もっと考えていきたいと思いました。

野生の動物たちも生きていて、おなかがすいたり、あんぜんな場所をさがしたりしているのかもしれないと思います。人と動物がおたがいにこまらないように、これからも、本を読んだり人の話を聞いたりして、自分にできることを見つけていきたいです。



私の住んでいる地いきは、彦根市の稲枝地区というところです。ここは琵琶湖に近く田んぼがたくさんあります。なので、地いき交流として、田植え体けんや、生き物かんさつ会や、枝かり体けんなどがあります。私は小学生になってそのどれにもさんかしてきました。その中で私が一番楽しみにしているのは、毎年6月にある生き物かんさつ会です。生き物かんさつ会は田んぼの水路でおこなわれています。なぜ水路で行われているかという、この地いきの田んぼは琵琶湖に近いので、「魚のゆりかご水田」という取り組みを、行っているからです。魚のゆりかご水田とは、昔、琵琶湖近くの田んぼで見られた魚が田んぼをさんらん場所として利用する自ぜんなかんきょうを取りもどしていこうとする取り組みのことです。

その時、水路を使って、琵琶湖から田んぼに魚がたまごをうみに来たり、田んぼでうまれた魚の赤ちゃんが水路を通って琵琶湖に帰ります。生き物かんさつ会ではその水路であみを使って魚をかんさつします。その時せん門の先生が来てくれているので、魚のとくちょうが分かったり、何のしゅ類の魚が田んぼに来ているのかが分かったりします。そうして、魚のゆりかご水田がなぜ、琵琶湖と田んぼにとって良いのかということを教えてもらったりします。そしてかんさつした後の魚は水路へ帰します。

私の家は、お米農家もしています。なので田植えを手伝ったり、お父さんやおじいちゃんが仕事をしているところを見に行ったりする時に、田んぼに行くことが多いので、田んぼはとても私の身近にあります。夏には友達と琵琶湖で遊んだりすることがあります。その田んぼと琵琶湖がつながっているということ、生き物かんさつ会で実感することができます。田んぼも琵琶湖も私にとってとても大切な場所です。大切な田んぼや琵琶湖がよごれたり、魚がいなくならないために、私はこの活動をつうじて、今あるかんきょうや自ぜんを守っていかなければならないと思いました。



ぼくは、彦根市本じょう町に住んでいます。ぼくの住んでいる本じょう町では、色いろな行事が行われています。ぼくは、いつもその行事にさんかするのをとても楽しみにしています。

今年の四月には、本じょう町のくるみ神社でお祭りがありました。そこでぼくは初めて子どもみこしを担ぎました。今まではコロナで子どもみこしをかつぐことができなかつたからです。初めてみこしをかついだから、思っていたよりもずっと重かつたです。みこしをかついでいる時に、すごく大きな声を出して、のどがかれそうになっていました。みこしはごうかで、とてもかつこよかつたです。ぼくは、初めてはっぴも着ることができてとてもハッピーでした。大人たちは、大人みこしをかついで、とても重そうでしたが、それを見守る人もかついでいる人もとても楽しそうでした。お祭りの歌では、すごくおもしろい歌で、ぼくは楽しそうだなあと思っていました。ぼくは、お祭りが来年もあることをねがっています。

夏には公みんかんで、夏祭りがありました。夏祭りでは、色いろなお店があつて、とてもわくわくしました。今までは、本じょう町の運動会があつたけれど、コロナや、町みんの高れいかによって、運動会がなくなり、夏祭りが新しく始まつたそうです。ぼくは、フランクフルトや、たこやきがものすごくおいかつたです。けん玉の先生にも来てもらつて、色いろなわぎをおしえてもらえてうれしかつたです。夜に友達とおにごつこもできて楽しかつたです。しゃてきでは、妹がほしいといつたアヒルをとれてうれしかつたです。わなげもパーフェクト賞はとれなかつたけれど、ほしかつたものがとれて、すごくよかつたです。ヨウヨウつりやスーパーボールすくいも、おもしろかつたです。ぼくは、夏祭りが大すきです。

本じょう町では、子ども会の行事もたくさんあります。今年の夏休みは、京都動物園へ行きました。動物園では、いろいろう動物を見て来ました。本じょう町の人たちもすごく楽しそうでした。ぼくは子ども会で本じょう町のみんなといっしょに話せて、とてもうれしかつたです。はじめて見る動物もいたから、すごくうれしかつたです。京都ではハツ橋作り体験もしました。すごく上手につくれたので、自分でもびっくりしました。本じょう町では、夏休みにラジオ体そうもあります。ラジオ体そうでは、友達も来るので、いつもしゃべっています。早起きは大へんだけれど、それがぼくの楽しみです。

このようにぼくの住む本じょう町には、たくさんの行事や楽しみがあり、大人も子どもも、みんなが集まつて、楽しくくらせているので、これからも、本じょう町を、今よりも、よりよい町にしていきたいです。



ぼくが夏休みに楽しみにしていることの一つは、地いきで開さいする地ぞうぼんです。

地ぞうぼんはお地ぞうさんにお供えをしたり、ちょうちんをかざったりして、地いきの人がお参りをします。毎年夏休みの終わりごろの土曜日に行われています。

ぼくたち子どもにとって地ぞうぼんは楽しい行事です。なぜかという朝から夜まで地いきの会館で友達といっしょに遊べるからです。ふだんあまり出会わない地いきのおじいさんやおばあさんも地ぞうぼんにお参りに来てくれるので、いろんな人と会える特別な一日です。

毎年地ぞうぼんでは、地いきの人が子どもたちのために、「魚つかみ」を準備していただきます。その魚はさめがいのようそん場から買ってきていただいたニジマスです。大きなビニールプールに三十匹ぐらいのニジマスを放流して、小さい子からじゅん番に手で魚をつかみます。とった魚は、くしにさしてバーベキューコンロで塩焼きにしてもらいます。焼きたてのニジマスは、やわらかくてとってもおいしいです。

去年の地ぞうぼんでは、竹ランタンの作り方を教えてもらいました。近くの山から太い竹を切ってきて、それを自分たちで三十から四十c mぐらいに切りました。切るときは、固くて丸くてすべりやすいので、地いきのおじいさんがしっかり支えてくれました。切り分けた竹に、花火やサクラのもようのかいた紙を貼り付けて、ドリルで竹に穴を開けていきました。細いドリルや太いドリルを使ってたくさん穴を開けました。その後、おじいさんがバーナーで竹をあぶってくれました。竹を火であぶると、緑色の竹がピカピカになりおもしろかったです。あぶった後に自分でヤスリを使って、チリチリの表面をツルツルにしました。完成した竹ランタンにLEDライトを入れると、開けた穴が光ってもようがきれいに見えました。初めて竹ランタンを作ってみて、切ったり穴を開けたりするのがとてもおもしろかったので、またちがうもようで作ってみたいなと思いました。

お昼ご飯は、お母さんたちがカレーを作ってくれました。カレーの野菜は地いきの人が育てたジャガイモやタマネギ、ニンジンです。カレールーはみんなが食べやすいようにあま口でした。おいしくて、みんなたくさんおかわりしました。

午後からは会館の周りでおにごっこをしたり、小野川で遊んだりしました。昔は小野川の上に橋をわたして上に「やぐら」を作っていたそうです。川の上で遊ぶのも楽しそうだなと思いました。夜には小野川の近くで花火をしました。手づくりの竹ランタンやちょうちんがきれいに見えました。近所のおじいさんが打ち上げ花火や、バクチクをしてくれておもしろかったです。

地ぞうぼんは、昔から行われている地いきの行事です。たくさんの地いきの人が準備をしたり後かたづけをしたりしてくれるおかげで、子どもたちもが楽しくすごせます。感しゃの気持ちを伝えられるようにしたいです。



私のふるさとで一番ほこりに思うのは、国宝の彦根城です。総合の学習で、五月に見学した時、初めてお城の中に入ってじっくりと見ました。急な階段やろう下がギシギシと鳴り、「昔、おとの様やさむらい達もここを歩いたんだな」と思うと歴史の重みを感じました。

また、馬屋天びんやぐら、三十やぐらなど昔の人の知恵や工夫がたくさん見られて、とても感心しました。特に三十やぐらから見た景色は、彦根全体が見わたせて心をうばわれました。落とし橋や鉄苞さまなどのてきに攻められないようにするための工夫もよく考えられていて素晴らしいと思いました。

この長い歴史を伝えるために、文化の日には大名行列やパレードが行われます。大名行列では、堂々とした武士の勇ましさに圧倒されて感動しました。パレードでは、私たち城東小学校の伝統であるマーチングバンドの演奏があります。私はそのはく力やかっこいい姿にくぎづけになり、ずっとあこがれていました。そして今年ようやく、自分達が演奏できるのですごくうれしくてわくわくしています。今までがんばってきた成果を出し切って、見ている人をみりょうするような演奏をしたいです。このマーチングバンドは私たちのほこりです。

二番目にほこりに思うのは、皆が落ちつける場所である「けやき道」です。この道を通ると、春には桜が咲き乱れてすごくきれいで、夏には木々の葉がおいしげって、すずしくセミの声であふれています。そばを流れる芹川には、シラサギやアオサギ、コガモやカルガモなどの野鳥が暮らしていて、アユやコイなどの魚たちも泳いでいます。八月六日に行われるとうろう流しでは、自分の願い事を書いて川に流します。たくさんとうろうが流れている様子は幻想的で見とれていました。

家族で散歩をしている時に、ふと、けやきの巨大な木を見上げました。けやきのごつごつとした大きなこぶを見ていると樹れい四百年近くという歴史を感じ、昔武士達が通っていたんだなと思いをめぐらせます。こんなに自然がいっぱいで、心がいやされる場所が近くにあって、みんなに自まんしたい所です。

最後に、ほこりに思うのは、ホタルです。家の前には平田川に流れる小さな川があります。春と秋には町内の人皆で川そうじをするので、すごく水がきれいです。六月の初めごろには、この川にホタルが飛びます。今年も祖父が、

「ホタルが飛びはじめたよ。」

と教えてくれて、家族で見に行きました。川のふちに止まっていたりふわっと飛んでいたりととても幻想的でした。これからも毎年ホタルがたくさん見られるとうれしいです。

この他にも、彦根には湖東焼きや彦根仏だんなどほこりれるものがたくさんあると思います。このような伝統や歴史、美しい自然を受けついでいき、ずっと大切に守っていきたいです。



旭森小学校は百五十三年も続く歴史がいっぱいの小学校です。私は、旭森小学校のすごいところが三つあると思います。一つ目は、百五十三年も続いていることです。どんな歴史があるのだろうと気になって図書館の本で調べました。調べてみると、千九百四十二年までは、「旭森」ではなく、「千本村」だったそうです。千本村から野田山、正法寺、大堀、東沼波、西沼波と分かれて行ってこれらの町を、全部あわせて、「旭森」となったそうです。そして、明治六年の時、町に一つ学校がありました。町に一つ学校をつくれるなんてすごくお金を持っていたんだなと思います。なぜ町に一つ学校を作ったのだろうと疑問に思い調べてみましたが、本には書いてありませんでした。私の先生は、校歌の「智徳の花をかざしゆく」というところがすごいと言っています。

「智徳」という意味が分からないので、調べてみると、知恵と徳の両方かね備えていると書いていました。校歌を作った作者は、色々なことを理解する力と常識を両方かね備えてほしいという気持ちで校歌を作ったのかなと思いました。

二つ目は、廊下、(ワーク)が広いことです。休み時間にみんなでなわとびをとんだり九マス鬼ごっこをしたりできます。ワークが広いことでいろいろな遊びができるのですごく楽しいです。それに歩いていても、人とぶつかったりしません。なのでけがをすることなく、安全にすごすことができます。

三つ目は、伝統行事のマーチングがあることです。マーチングがどうして始まったか知りたくて図書館で調べましたが本が見つかりませんでした。誰か知ってる人がいたら教えてほしいです。五年生の十一月に引きつぎ式をして、六年生のペアの人から自分の選んだ金管楽器、太鼓、フラッグ、バトンと手紙をもらいました。これから私達が「マーチングをするんだ!!」という気持ちになります。引きつぎ式が終わったら、いよいよマーチングが始まります。初めてのマーチングはすごく楽しみでワクワクしていました。六年生のペアの人がすごくやさしくて分かりやすく教えてくれたので、足ぶみのやり方や、フラッグの持ち方などをすぐ覚えることができました。うれしかったです。六年生になってから外でマーチングを練習するようになりました。今まで体育館で練習していました。でも外に出るとものすごく大きく動けるので動きやすいです。十月には運動会があります。十一月には城まつりパレードがあります。城祭りパレードにも毎年旭森小学校は参加しています。今までがんばってきた成果を出せるようにがんばります。そして、伝統あるマーチングを五年生にしっかり引きつぎたいです。これからも旭森小学校は、マーチングをずっと続けてほしいと思っています。

百五十三年続く旭森小学校の六年生に私はなりました。伝統あるマーチングを私も努力してしっかりと受けついでいきたいです。



中学生広場「私の思い 2025」作文

(特選) 福原 知紗「家族の心をつなぐもの」彦根市立南中学校 1年

「ありがとう。」

この言葉は、私たち家族にとっては、特別なことがあったときだけでなく、日常の小さな出来事にも自然に使っています。

今年の四月から、父と母の仕事が昨年よりもっといそがしくなりました。どちらも職場で責任のある立場になり、帰ってくる時間が遅くなったのです。さびしさを感じることもありますが、それでも私たちは協力しながら、毎日の生活を支えています。

両親が忙しいので、平日の夕方は祖父母の家に行っています。祖父母は、私たちのために、毎日おいしいご飯を作り、あたたかく迎えてくれます。夕食の前には、お箸やお皿を並べる手伝いをしたり、みんなでお風呂に入るときには、弟やいとこの体を洗ってあげたりしています。祖母は、「手伝ってくれて助かるわ。ありがとうね。」と笑顔でいってくれます。その一言がうれしくて、もっと力になりたいと思うようになります。

父や母に迎えに来てもらい、家に帰ると私はすぐに寝てしまうことが多いです。しかし、翌朝目を覚ますと、せんとく物はきちんと干され、朝ごはんも用意されていて、家族全員の水筒にはお茶が入っています。私はいつも朝、起きるのが苦手で、家族の中で一番遅く起きています。いそがしくても、両親は家族のために朝からいろいろなことをしてくれているので私は「ありがとう。」と気持ちを伝えています。

朝はなかなかお手伝いをできていませんが、学校から帰ってきた後、せんとく物を取りこんでたたんだり、食器を片付けたりして、少しでもお手伝いができるようにしています。すると母が、「片付けてくれたの？ありがとう。うれしいわ」と声をかけてくれます。その言葉が私を笑顔にしてくれます。

ある日、ふと気づいたことがありました。それは私たち家族の中では、誰かが何かをしてくれたとき、必ず「ありがとう。」と言っているということです。父は誰よりも早く起きて、家族全員のせんとく物を干してくれます。母は仕事で疲れていても、朝ご飯を用意してくれたり、土日にはみんなの好きなおいしい料理を作ったりしてくれます。

私たち家族は、それぞれができることを、精一杯やりながら、お互いに頼り合って、助け合いながら生活しています。そしてそのたびに自然と「ありがとう。」という、言葉を伝え合っています。それは思いやりの気持ちから生まれる言葉だと思います。

私はこの「ありがとう。」が大好きです。たった五文字の言葉ですが、そこにはたくさんの感謝と、あたたかい気持ちが込められています。「ありがとう。」と言われると、自分が、誰かの役に立てたのだと実感できて、心がポカポカしていきます。逆に、自分が「ありがとう。」と伝えることで、相手の笑顔を見ることができ、その笑顔を見ると、自分も、また幸せな気持ちになるからです。

家族というのは、毎日同じ空間で過ごすからこそ、気持ちがすれちがったり、言葉を省略してしまったりすることもあります。でもそんな中で、「ありがとう。」を言い合える関係は、本当に大切だと思います。いそがしい毎日の中でも、「ありがとう。」という言葉が私たちの心をつないでくれているのだと思います。

これから先、学校や友だちとの関係の中でも、家族と同じように感謝の気持ちを忘れずにいたい

です。ちょっとしたことでも、「ありがとう。」と言えるようになれば、自分も相手もきっとやさしい気持ちになれるはずです。

「ありがとう。」

この言葉は、私たち家族の心をつなぐ大切な合言葉です。どんなに生活がいそがしくなっても、どれだけ成長しても、この言葉を大切にしたいと思います。



入選 森 みのり「私の思い」彦根市立西中学校 2年

二月二十六日。私が期末テスト勉強をしているとき、一通のメールで、家族みんなが凍り付いた。それは、私の三十代後半のおばさんが、ステージ三の乳がんと診断された。という内容だった。私は、とてもびっくりした。おばさんのような若い人でもがんになってしまうのだと思っし、身近で聞くことも増えたけれど、私にとっては無縁だと思っていた。がんは強い薬を使ったり、手術をしたり、とても苦しくてつらい治療だと聞いたことがあった。がんを診断されたということを知ってから私も、メールをしようと思ったけれど、どのように言葉をかければよいかわからなかった。言葉選びが難しかった。自分に何ができるか考えたが、何もできない。そんな時に、目の当たりにしたのは自分の無力感だけだった。どうしておばさんががんにならなきゃいけないのかと思うことしかできなかった。数日後、ビデオ通話をした時、笑顔で出てくれた。少しほっとした。おばさんはとても強いなと思った。私だったら電話どころではないと思った。

インターネットでがんのことを調べたところ、完全に防げるわけではないが、なりにくくすることはできると書いてあった。おばさんのように、原因がわからないケースもあるけれど、がんになる要因としては、喫煙、過度の飲酒、塩分などを取りすぎる、野菜や果物を取らない、運動不足などだ。私はファストフードやお菓子が大好きだ。しかし、それらは、添加物がたくさん使われており、栄養より味を重視する食べ物がたくさんあるとのこと。また、私は、お母さんが毎朝果物をむいてくれるけれど、早起きが出来ず時間がなくて、食べられなかったりする。このような生活習慣を繰り返すと、生活習慣病を引き起こす原因になってしまう。現在では、日本人の三人に二人が生活習慣病で亡くなっているそうだ。

もし私の家族ががんになった時、私はどのようなことをすればいいのか想像がつかない。不安でいっぱいになるばかりだ。また、もし自分ががんと言われたら、信じられないし、現実逃避してしまうと思う。そして、何もできなくて自分の生活習慣に後悔をするばかりの毎日を送ると思う。さらに恐怖でいっぱいになった。おばさんががんと言われた時、強い心で受けとめたのだとわかった。私にはどうしてできないことだと思った。

私には他にもたくさんの知らないことや、未熟なことがたくさんある。そんな中でも、一生懸命、自分なりに、自分に何ができるかをたくさん考える機会ができた。とても大切な時間だった。私は健康で元気に学校に行けて、たくさんの友達としゃべり、家族で食卓を囲んでご飯が美味しく食べられるという、毎日の当たり前のことが幸せということに感謝して生きていかなければならないと思った。たくさんの周りの人の笑顔に包まれて、生活できていることを嬉しく思う。健康で楽しい生活が送れるように、防げる病気を防いで、栄養に偏りのない食事、早寝早起きができるような健康的な生活をしていきたい。

私にとって、おばさんはとてもやさしくて、お姉さんのような大好きな存在だ。だから、しっかり完治して、笑顔で帰ってきてほしい。また、みんなでいろいろなところへ出かけて、たくさん遊びたい。これからの抗がん剤治療も私や家族が全力で応援するので、頑張って乗り越えて欲しい。たくさん元気づけたい。





私は演奏を始めるときに、「自分らしさ」について考える。部活動で仲間とフルートを吹くときも、一人でピアノを弾くときも、いつも。「自分らしい」音楽を奏でることはとても難しいことだと思います。私にとって「自分らしい」演奏とは、人を笑顔にさせる演奏のことです。

小学生のとき、ピアノの発表会で「あなたらしくて、良い演奏だったよ」と言われました。相手は褒め言葉として、その言葉を私にむかって言ったのだと思います。でも、心の中には、その言葉を素直に入れられない自分がいました。「あなたらしい演奏」って何なんだろう。

「自分らしさ」について考えてみると、明るい自分。ネガティブな自分。天気が悪いだけで機嫌が悪くなる自分。おいしいものを食べるとテンションが上がる自分。すぐに緊張してしまう自分……。いろいろな自分が脳裏に浮かんできます。どうすれば、そんな「自分らしさ」を演奏に活かすことができるのでしょうか。

私を人を笑顔にさせる音楽を目指すようになったきっかけは二つあります。

一つは、部活動の顧問の先生の言葉です。「演奏者だけが気持ちよい演奏ではいけない。聴いてくれる人が笑顔になることを一番に考えて演奏しなさい。」

次の演奏会では演奏曲を決めるときに言われたこの言葉に、私ははっとしました。自分たちだけが楽しんで演奏することしか考えていなかったことに気づいたからです。「自分たちさえ楽しければそれで良いのか。」「聴いてくれる人は、私たちの楽しそうな姿を見るだけで満足するだろうか。」

聴いている人も一緒に、楽しみたいはずです。演奏者も聴いている人も、同じように楽しむことができれば、それこそ最高でベストな演奏会であると、私は気づいたのでした。

もう一つは、ピアノ教室の活動で、老人ホームで、私がピアノ演奏をしたときの経験です。

私はとても緊張しやすく、本番前には自分の演奏のことで頭が一杯になってしまいます。途中で止まってしまうんじゃないか、練習通りに弾けないんじゃないか……。そんなことを考えてしまうのです。

当時、私の目標は、「練習どおり間違えずに弾くこと」でした。この目標を達成できなければ満足できなかったし、聴いてくれる人も楽しめないと思っていました。あの日も私の頭の中はそのことで一杯でした。

演奏が終わり、頭を上げたとき、私の目の前のおじいちゃんおばあちゃんはみんな笑顔で、大きな拍手をしてくれました。あの笑顔を見たときのうれしさは今でも忘れられません。

失敗せずに演奏ができた安堵をはるかに上回る感情の高まりでした。

この体験以来、以前より緊張しなくなり、楽しんで演奏できるようになりました。そして自分自身が楽しむことはもちろん、聴いてくれる人の笑顔こそが大事だと思うようになったのです。

音楽の力はすごい。良い音楽と触れ合うと、まるで私が良い行いをしたかのように思えます。これから先、どんな試練が私の前に立ちまわったとしても、その音楽が私に力をくれ、助けてくれるでしょう。

「自分らしい」演奏を求め続けている今、ピアノ教室や吹奏楽部で共に演奏する仲間たちの「その人らしい」演奏も、見つけていきたいと思っています。

決して否定するのではなく、その演奏の、「その人らしさ」に目を向けたい。どんな演奏であったとしても、その人にとっての大切なかけがえない個性なのだから。今日も私は「自分らしさ」を求め。そして、「やっぱり音楽って素晴らしい」と心の底から叫びたい。

生まれて初めて広島の平和記念資料館を訪れました。広島が火の海になっている絵、酷いやけどを負って苦しんでいる写真、血がつきやぶれている服、黒くさびついた三輪車、八時十五分で止まっている時計、形が変形した弁当箱、送ることができなかった葉書、熱で溶けた金属の塊。どれも痛々しいものばかりで見ていられないほどの衝撃を感じました。私は展示品を見て戦争について深く考えるようになりました。そして、原子爆弾が投下されてから被爆者はどのような思いで生活していたのか疑問に思い調べてみることにしました。すると、「原爆症は遺伝する」という理由で結婚や就職を断われたり、医療が十分に行われず治療の遅延や不当な扱いを受けたり、さらには、地域社会から排除されたりと冷たい目で見られていたことがわかりました。また、多くの被爆者が仕事を失い精神的ないじめを受けてきました。現在も差別が続いているようです。一体なぜ続いているのでしょうか。原因は、被爆の記憶が時代とともに薄れ被爆者の苦しみが忘れられようとしていること、被爆者に対する偏見や差別的な態度が挙げられます。親の被ばくによる放射線による影響で健康被害を訴える人がいますが、被爆者援護法に基づく医療支援や手当の対象外とされていたり、社会的な偏見を受けたりと今もなお苦しんでいる人がいます。それは日本だけではなく。韓国も広島に投下された原子爆弾を受けた国です。日本と同様に、今も続く差別に苦しむ人が多くいます。

では、現在も続く差別をなくすためにはどうすればよいでしょうか。このようなことが繰り返されないためには何ができるのでしょうか。それは二つあります。

一つ目は、被爆者の声に耳を傾けることです。私が広島に訪れたとき、被爆者二世の方のお話を聞きました。その方は「被爆者だからという理由で勝手な決め付けをしてはならない。被爆者の声を聞かなければ差別はなくなる。」とおっしゃっていました。被爆者だから知っている苦しいことや困難はたくさんあります。それを多くの人が正しい知識で理解することが大切です。そのためには、どうすればよいでしょうか。それは被爆体験を語る機会を増やすことです。図書館や市役所など人が集まる場所で一人でも多くの人が話を聞ける機会を作ることが良いと思います。

二つ目は、核兵器の脅威について世界に伝えることです。日本は世界で唯一の被爆国です。

核爆弾の怖さを知っている日本は核兵器のない世界の重要性を伝えることができます。今もまだ核兵器を保有する国は存在します。核兵器を使用しないためには保有する国が「核兵器は必要ない」と考え方が変わることや、核兵器の危険性について理解し戦争のない世界を願う気持ちを持つことが大切です。

現在、ウクライナ侵攻やアフガニスタン紛争など五十九もの紛争が発生しています。罪のない人たちが家を壊され、家族を失うようなことがあってはいけません。また、核爆弾を投下される可能性も十分あります。広島で差別され、苦しんできた人が多くいたように同じことを繰り返されることが許されてはいけません。私たち一人一人が戦争について理解し伝えることがとても重要です。現在行われている戦争がなくなり、平和を尊重しあえる世界になることを願っています。そして、過去に起こった戦争について学習していきたいと思います。





最近、お米の値段が高いというニュースをよく見るようになりました。私はお米の値段を上げるのに賛成します。確かに今のお米の値段は高いのかもしれませんが、今までが安すぎたのではないかと私は感じています。

私たちの食卓に欠かせないお米ですが、その一粒一粒にどれだけたくさんの苦勞と時間、人々の手間がかかっているのか知っていますか？私の家では、お米を作っていますが、お米作りは、ただ種を蒔いて収穫するだけの簡単な作業ではありません。まだ肌寒い春頃から準備が始まります。まず、お米の元となる苗を作るために種を撒き、ビニールハウスで育てます。この時に暑すぎたり、水加減を間違えれば苗が上手く育ちません。この「苗づくり」だけでも、大変な手間と気づかいが必要になってきます。近年では、機械化が進みましたが、すべてを自動でできるわけではありません。特に小規模な農家さん達は人の手に頼る部分も多く、大規模農家さんより大変なのが現状です。田植えが終わった後も、雑草の除去や水の管理、害虫や病気への対応、毎日注意深く田んぼを見ていないといけません。さらに最近では、異常気象も多く、突然の大雨や猛暑、台風など、自然の脅威にさらされる事が増えました。秋の収穫をむかえる頃には、体力的にも精神的にも大きな負担がかかっていますが、それでもより多くの人たちにおいしいお米を届けるために、農家さんたちは日々努力をしているのです。

これだけ多くの手間と時間がかかっているのにもかわらず、今までの価格は、見合っていなかったと私は感じています。また私たちの国産でなくとも「少しでも安いもののほうが良い」という要望などにより、安価な輸入米などの消費も増えてきていて国産米の価値は、今までより下がっているのではないかと私は考えています。それに肥料や農薬、機械の維持費、燃料代などの生産コストは円安や部品の値上がりなどで年々上がり続けています。結果的にしっかり生活できるだけの収入を得られずに、多くの農家は採算が合わず米作りを辞めてしまう人も近年多くなっています。また若者が農業に希望を持たず、農業関係の仕事に就こうと思う人が減り高齢化が進むという深刻な問題の中で、日本の農業を守り、続けていくには、農家が安定して収入を得られる仕組みが必要になると思います。また、消費者側も値上がりが多い今、「安さ」ばかりを求めてしまっていないでしょうか？食の安全と品質、そして生産者の努力に目を向けることが必要だと思います。もし外国産などの安価な米に依存するようになれば日本の農業は衰退し、食料自給率の低下というリスクも高くなってしまうため、国内で米作りを支えることは重要です。さらにお米は単なる商品ではなく、日本の文化であり私たちの生活に欠かせない食べ物なのです。その価値を私たちが正しく評価し、生産者がきちんと生活できる価格で売られるようにすることは、私たち全体の責任でもあると思います。

米の値上げは確かに消費者にとって負担になり受け入れがたいと思いますが、もし値上げによって、農家が安定して米を作れるなら長期的な安心への一つの投資と考えるべきだと思います。消費者と生産者、どちらにも良い社会をつくるため私たち一人一人が少しでも農業の現実に向け、正しい知識を持ちその価格の裏にある努力と苦勞を理解し、値上げという事実だけを見て否定するのではなく、なぜそれが必要なのか納得したうえで受け入れる姿勢を持つこと、米を食べられることに感謝することが大切だと思います。またそれに見合った対価を払うことで未来の農業に繋がり、これからの世代にも繋がるきっかけとなると思います。だから私はお米の、値上げに賛成です。

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」
(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

特選

きれいなさくら



菊本 遥日

彦根市立城西小学校 3年

家族の Memories



古澤 舜椰

彦根市立西中学校 2年

家族といたい。

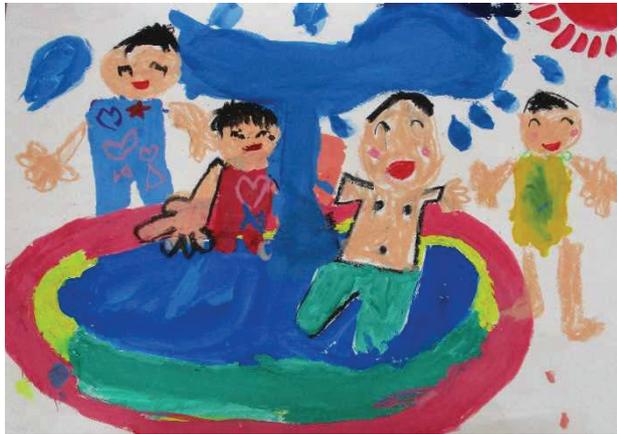


清水 優花

彦根市立西中学校 3年

入選

たのしいプール



御厨 紬

彦根市立城東小学校 1年

大すきな弟とわたし



山崎 滯

彦根市立若葉小学校 2年

家族の思い出は宝物



浅賀 萌生

彦根市立城南小学校 4年

家族みんなと夏の思い出



北村 紗菜実

彦根市立金城小学校 4年

家族の絆



末石 栞奈
彦根市立彦根中学校 1年

地域のつながりを大切に



細谷 寧々
彦根市立西中学校 2年



「わたしのふるさと」

絵画

特選

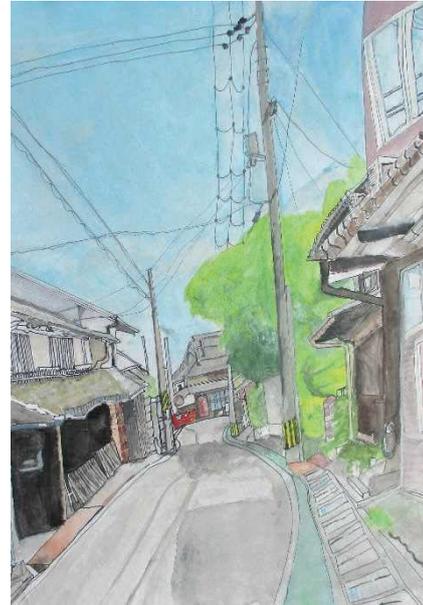
もうすぐ鳥人間コンテスト！



毛利 優太

彦根市立城西小学校 6年

旧鳥から見た赤玉



小嶋 寧々

彦根市立鳥居本小学校 6年

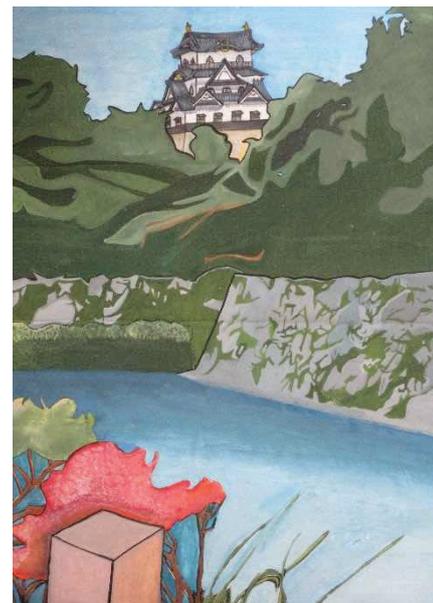
公園からの芹川のむこうがわ



大西 美穂

彦根市立東中学校 1年

私の帰り道



毛利 莉琥

彦根市立西中学校 3年

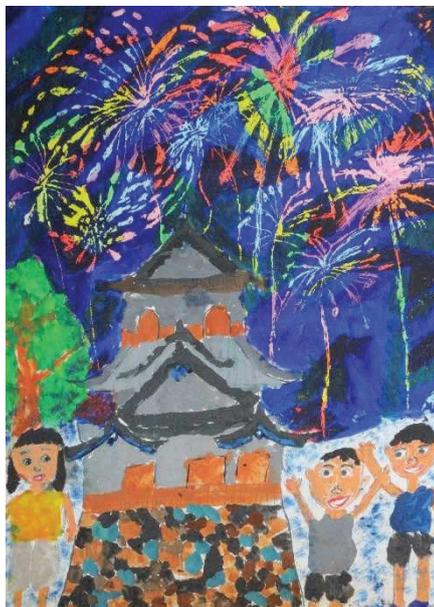
入選

いえのすいかですいかわり



平石 愛果
彦根市立平田小学校 2年

夜の彦根城と花火



寺村 拓海
彦根市立佐和山小学校 3年

花しょうぶ通りの月



國枝 奈乃葉
彦根市立城東小学校 5年

おじいちゃんと田植え



佐藤 ななみ
彦根市立佐和山小学校 5年

いつもの風景



小川 千咲
彦根市立佐和山小学校 6年

夏休みの流しそうめん



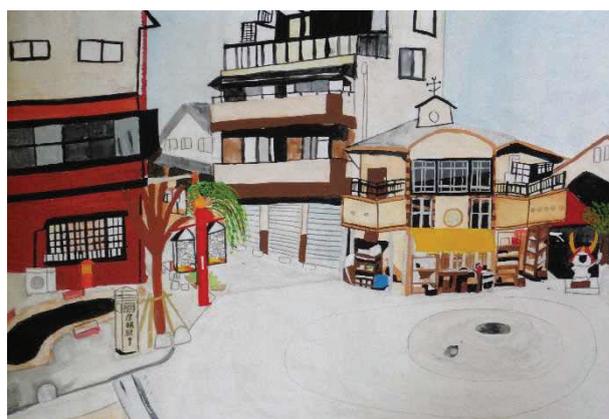
矢田 皓雅
彦根市立東中学校 1年

あのベンチ



上林 眞彩
彦根市立稲枝中学校 1年

見慣れた街並み



速水 咲那
彦根市立西中学校 3年

佳作入賞者一覧



「わたしのふるさと」作文

ふるさとの彦根城	城南小学校	4年	八田 麻帆
私の大すきな新海浜	稲枝西小学校	4年	殿村 小町
みんなで応援	平田小学校	5年	榎木 心咲
ふるさと鳥居本	鳥居本小学校	5年	中辻 夏鳳
私のふるさと 葛籠町	河瀬小学校	6年	島野 朝陽

中学生広場「私の思い2025」作文

あいさつ	東中学校	1年	松本 ゆら
友だちとの関わり方	南中学校	2年	上田 莉緒
地震に対する思い	稲枝中学校	2年	岡崎 結花
母からもらったもの	南中学校	3年	西村あゆみ
夢	稲枝中学校	3年	因幡 結子

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」

(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

みんなでなかよくおさんぽ	金城小学校	1年	市川 来夢
ならけんこうらんど たのしかったかぞく	稲枝西小学校	1年	安達 美琴
家ぞくで見た花火大会	旭森小学校	2年	大堤 偉智
愛あふれる家族の時間	彦根中学校	2年	馬場 汐里
シャイな弟	稲枝中学校	4年	吉村 旭
時が止まった瞬間	西中学校	3年	世森 優唯
なべも家族もあったかい	西中学校	3年	宮本 竜来

「わたしのふるさと」絵画

家族で彦根城へお花見	城南小学校	1年	辻村 凜
かっこいいピカピカ彦根城	城東小学校	2年	溝口 詩太
高宮花火	河瀬小学校	2年	河村菜々香
ぼくのまちのはたけ	稲枝西小学校	3年	安居 渚
ぼくの街のシンボル!	城陽小学校	4年	増田 鉄太
ききゅうからのけしき	稲枝西小学校	5年	大塚 龍心
青空に輝く彦根城	東中学校	1年	木下 結椛
庭園への入口	東中学校	1年	田中 龍希
五時間の彦根城	東中学校	1年	韓 曦
美しい鳥と彦根城	西中学校	2年	村田 咲帆



審査員紹介

審査は、次の方々をお願いしました。(敬称略)

「わたしのふるさと」作文

元小学校長 藤井 純子
城西小学校 校長 北村 里美
彦根市青少年育成市民会議 副会長 田附 弘和

中学生広場「私の思い 2025」作文

元小学校長 藤井 純子
彦根中学校 教頭 西山 久美子
彦根市青少年育成市民会議 副会長 田附 弘和

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

元小学校長 小野 淳
元小学校長 加藤 洋一
彦根市青少年育成市民会議 青少年育成推進指導員 吉田 徳一郎



「わたしのふるさと」絵画

元小学校長 小野 淳
元小学校長 加藤 洋一
彦根市青少年育成市民会議 青少年育成推進指導員 吉田 徳一郎

★★ あとがき ★★

今年度の入賞作品集が刊行されました。

彦根市内の小学生・中学生の皆さんから、たくさんの作文、絵画、ポスターが応募され、心より感謝申し上げます。

審査会では、自分の体験に基づいた作文や、ふるさとへの思いが込められた作品に感心しました。また、絵画やポスターでは、素直で丁寧に描かれた作品が多く、ふるさとの風景や温かな思いがしっかりと表現されていました。

紙面の都合で、特選・入選作品のみの掲載となりますが、ぜひ多くの方々にご覧いただけることを願っています。



